



坂上 竜資 先生

略歴

1984年 北海道大学歯学部卒業
北海道大学歯学部歯科保存学第2講座 医員
1986年 米国オレゴン健康科学大学ポストグラジュエートコース入学
1988年 同上修了 米国歯周病専門医
1989年 北海道大学歯学部 助手
1994年 博士（歯学）（北海道大学）
1996年 北海道大学歯学部 講師
2003年 福岡歯科大学口腔治療学講座歯周病学分野 教授
日本歯周病学会指導医 認定医委員会委員長（2013～2014年）、専門医委員会委員長（2015～2016年）、歯科衛生士関連委員会委員長（2017～2020年）；日本臨床歯周病学会指導医、歯周インプラント指導医；米国歯周病学会ボード認定専門医

歯周病罹患歯の予後判定でおさえるべきポイント

福岡歯科大学口腔治療学講座歯周病学分野
坂上 竜資

本学術大会のメインテーマは、「寿命100年時代を見据えた歯周病治療」というまさに近未来を見据えたものである。しかし高齢者への対応とともに、今この時も、「数十年後に高齢となる若年者」への対策が求められている。その理由は、歯周炎は放置すると蓄積的に病変が進行し、歯周ポケットの深化により治療が難しくなるという特徴があるからだ。歯肉炎や軽度の歯周炎の若い患者に対しては、経験の少ない歯科衛生士でも、口腔清掃指導と簡単なスクレーピングだけで健康な状態に留めておくことができる。しかし重度の歯周炎患者に対しては、どんなに経験を積んだ歯科衛生士・歯周病専門医も治療が困難な場面に遭遇する。重度歯周炎患者では、根分歧部が歯周ポケット内に露出しており、この部位を清潔に保てないことが1つの要因である。したがって歯周病治療を確実に成功させるためには、「人生の早期からの歯肉炎予防・歯周炎進行抑制」が求められる。

歯周病治療の臨床で重要なことは、次の2つに集約される。第一は患者自身による日々の口腔清掃であり、第二は歯科医師・歯科衛生士による適切な治療介入である。歯科医師と歯科衛生士の責任は重大であり、管理の不徹底や技量不足が原因で、治療中やメンテナンス中に病変が進行するような事態は避けなくてはならない。

今回の教育講演では、(1) 正しい歯周病の評価法（ポケットプロービング、根分歧部検査、咬合検査など）を確認する。(2) 歯周病診断の新基準について紹介する。(3) 歯の予後判定（将来予測）をする際におさえるべきポイントを解説する。さらに、(4) 認定歯科衛生士申請のための準備方法と間違いやすい点について、口腔内写真、歯周組織検査、診断、治療計画の立案、歯周外科手術、メンテナンスなどの具体的事例を解説する。

歯周病の特効薬が見つかっていない現在、歯周病治療の鍵は「人生の早期からの歯肉炎予防・歯周炎進行抑制」である。国をあげてこれに取り組む環境を作りたいものである。日本歯周病学会は、歯科衛生士の果たす役割を歯周病対策の要であると捉えており、再来年からは理事数名を歯科衛生士から選出する。日本歯周病学会の認定歯科衛生士数はすでに1100名を超え、能力もやる気も十分な歯科衛生士のパワーには目を見張るものがある。日本における歯周病の蔓延を改善するため、学会に所属する歯科衛生士への期待は極めて大きい。